

温い言葉に誠心こめて

在満勇士の家庭を慰問

平町婦人達が神前に額づき 武運長久と家内安全を祈願

邦國の爲めに赤誠を献げて
勇躍する満洲駐屯兵——その
家族を慰問する爲め昨日
の如く平町愛國婦人會では
昨日協議を遂げた結果来る
五日午前十時縣社子鐵倉神
社々頭に於て山部神官修祓の
許に祈願式を擧げ在満洲兵
の武運長久及び其家族の安
全を神前に祈念し幣帛及び
守札を受け平婦人會並びに
女子青年團員と共に左記の
家族を慰訪し温い言葉に誠
心をこめて慰問する事とな
つた

完成の豫定

本年度に 完成の豫定

問題の湯本トンネル
鋭意進工

△久保町四一(獨守)大竹
榮一△七軒町三九(朝鮮)
田巻源市 △久保町三三
(七六)青木利雄△新川町
三〇(朝野)中野喜平△長

健康の美はしさ

大人へ近づいて

スポーツを誇る

今開けなはの秋にスポー
ツは躍る、街のラヂオ屋の
前に層をなして群集する我
々の胸に、神宮球場から送
られるアナウンサの聲は興
奮の渦を捲く、紅潮した群
集の頬に一喜一憂の影が刻
々に變移する、野球時代

職業紹介

主要都市の 職業紹介

平町に参集

本縣主要都市たる福島、若
松、郡山、平の各職業紹介
所長及主任書記は七日午前
九時から平町四丁目丸友ビ
ル樓上に参集し十一月の求
入開拓デー當日の實施法及
び紹介事務の進捗と宣傳其
他に就いて打合せ會を開催
すると

泉村の志賀氏が 農業改善を擔當

指導を受ける設計要項

石城郡泉村の篤農家志賀澤
之介氏は本縣農會の農業經
營改善の指導農家を擔當す
る事となつたが其の設計要
項左記の如くであると

- 1 大麥五畝歩を作付けせんとす
- 2 菜種五畝歩を作付けせんとす
- 3 里芋二十歩と球根類十歩を作付けし更に里芋の増加あると經濟事情の變動と考慮し水利便にし

さな争鬭意識のもとに輸贏を決する日

分擔して

工費を 分擔して

縣境隧道改修

濱街道の本縣勿來町と茨城
縣との境界をなしてある勿
來町九面トンネルは地質軟
弱なところから危険の虞あ
り數年來開鑿問題起つてゐ
たが一日池田内務部長は淺
見土木課長と共に視察する
所ありいよ／＼工費三萬餘
圓を茨城縣と協定分擔を定
め明年度豫算に計上改修す
る筈

今日の話

遠州掛川町の大橋うた(三)は丙午
で一生結婚出来ないことを苦し
た揚句、獨身で暮すには女では立
つて行けぬと、縁の黒髪を惜氣も
なくぶつ切り切り落して、男性に
なりすまして自動車運轉手を志願した。そして一
生懸命勉強した甲斐あつて、見事に免許狀を得、
稼業に従事してゐたが、誰一人彼女を女性と思ふ
ものはなく、すつかり男になり切つてゐた。それ
だけに、年下のその助手宮崎藤太郎(三〇)と戀愛關
係があることを氣付くものもなかつたが、然し姿
は男性でも、戀の實はどうかすることも出来ない。
月の重なると共にお腹がふくれて来たので、世間
では男性で通つてゐるだけに、彼女は身の始
末に思ひ餘つた結果、とう／＼カルモチン自殺を
遂げたが、いくら女性達が男性化さうたつて、結
局は女性であることの約束までは捨てることは出
来ないものである。

石城繭取引状況

△四倉繭市場(十月二日)
(白繭)一〇〇二貫(最高)
二圓九十三錢(最低)二圓
五十八錢(別)二圓七十四
錢

平町人事

▽植田市場(十月一日)
(白繭)六九二貫(最高)二
圓八十八錢(最低)二圓六
十錢(別)二圓七十九錢

□ 死 亡
△紺屋町一 當時石城郡湯本町開船
字上關佐々木キツ(三一)

外科

平新川町十九

内臟外科 醫學士
整形外科 醫學士
外科一般 醫學士
松永憲一

木村病院

◇産婦人科院長從前通リ診療

突然法廷で發狂し 眞ッ裸で暴れ廻る

磐銀債權者調査會に列席中 平署からサイドカー

本日午前十一時頃平區裁判所法廷に開かれた第二回磐銀債權者調査會に列席中の石城郡勿來町窪田行川國松(三)は突然發狂し眞ッ裸となつて暴れ出し書記席に迫り志賀監督書記に食つて掛かるので手の付け様なく急報に接した平署から五六名の巡査がサイドカーにて走せ付け漸く取鎮めたが一時は大騒ぎであつたと

何食はぬ顔 逃走せんとし

料理番に捕る

紅葉 川前村の 觀楓客吸集

今では遠方から、杖引く人が多い

行樂の秋、紅葉のシーズンも近付いてきたので石城郡川前村では今年こそ夏井川上流一帯の紅葉を大々的に宣傳せんと早くも觀楓客吸集のプランを立てゝゐるが

美人ならざる悲哀 思ひつめた男に嫌はれ 女給にもなれず徘徊

保男(三)に戀してゐたが彼には想思の仲である美人のすみ(一)といふ戀人がゐるので度々せつない胸を

田舎娘 がうろくし

てゐるので不審とみて密行中の平署員が取調べてみる

手紙に 託して保男に

送つたが「お前の様なおかめは顔を洗つて出なをしてこ」と悪口されたのでそ

れでは町に出て女給になつて見返せる程の美人になつて見返しをしてやれと昨日午後四時頃家を出て平町のカフェーを頼み追つたが何しろ醜女なので

皆斷られせう然と前 記カフエー前に立つてゐた

ものであると判明した

在滿兵慰問 石城郡 江名の篤志

帝國在郷軍人分會では今回同町出身在滿兵八名に對し一人前十五圓の篤志寄附を得て一日慰問袋を發送した

馬を半殺し 轢逃げ自動車 發覺して取調

去る一日午前七時五十分頃平窪村大字鯨岡字洞九鈴木朝五郎(五)が牝馬を引いて平町鎌田橋を通行中疾走し來つたトラックのため牝馬は轢倒され半殺しになつた上トラックは其儘逃走したので其筋では嚴重搜索した結果右のトラックは石城郡四倉町仲町自動車業新妻寅吉所有運轉手草野村下神谷新妻辰政(三)と判明今日平署にて取調べ中

自動車検査 平と植田で

平署では四日から八日迄また植田署では九日に夫々自動車の車體検査を行ふ由

滿洲問題 の座談會

既報第二師團留守司令官安田郷助中將の來平を機とし五日午後七時からマ

善行 精勤 賞授與 本郡出身兵

歩兵第二十九聯隊留守隊本部出身者にして今回善行證授與された者左の如し
鹿島村被立貞二、箕輪村高萩左織、平窪村江尻正光

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間) お話「動物を大切にしませう」農學博士法學博士新渡戸稻造
後七、三〇 講演「最近の土耳古」内藤智秀
後八、〇〇 長唄「越後獅子」吉住小桃次外
後八、三〇 寸劇「秋のユイモア」音調座
後九、〇〇 室内樂(ピアノ)レオ・シロタ(ヴァイオリン)ロバ、ト・ポラト

校地が賣れず 困惑の勿來町

勿來町舊小學校敷地賣却問題は屢報の如く一部分のみを賣拂つたが他は依然その儘となり財政難の今日

男に捨てられた 小奇麗な朝鮮女

途方に暮れて平署へ 覺束ない發音で操言

本日正午平署へ二名の小奇麗な朝鮮女が怪しげな日本語で「妾の夫を尋ねて下さい」と

願出たが同人は朝鮮京城生れ林寄陽(三)と同人の妹の林角仙(三)の兩名で最近東京で知合つた釜山岩南生れ賣藥行商人、蔡黃林(九)と共に平町白銀町に居を構へて居た處は毎日行

商に出掛けて居るうち内郷村綴の酌婦に迷ひ込み昨夜突然映畫見に行くと言つた儘有金を持出し綴の酌婦と共に行衛を晦ましたので

異境の 空に残された 願出たものであると 奉納三曲演奏 石城郡豊間村沼の内賢沼辨財天

明日のラジオ

今晚の部
後六、〇〇(子供の時間) お話「動物を大切にしませう」農學博士法學博士新渡戸稻造
後七、三〇 講演「最近の土耳古」内藤智秀
後八、〇〇 長唄「越後獅子」吉住小桃次外
後八、三〇 寸劇「秋のユイモア」音調座
後九、〇〇 室内樂(ピアノ)レオ・シロタ(ヴァイオリン)ロバ、ト・ポラト

明日の部
後九、一〇 樂養料理「鱈のバター焼」樂養研究所
後九、三〇(子供の時間) オークストラと歌「慶應義塾ワグネルソサイテイ」獨唱河原喜久恵
前一〇、〇〇 修養講座

「家庭的宗教」岡部宗城
前一〇、〇〇「講演動物愛と人類愛」安部磯雄
後一、一〇 水上競技第六回明治神宮體育大會水上競技大會
後二、〇〇(子供の時間) 少年講演 鶴見欣次郎
後六、三〇 ラヂオ講座「國際放送の筋道」逓信技師 小野孝
後七、三〇 三曲合奏 箏 佐藤孝子 三絃丹波喜美 治尺八新岡富嶺
後八、〇〇 聲色「吹き寄せ」柳亭春樂
後八、三〇 富本「傳兵衛」富本豊前外
後九、〇〇 義太夫「戀女房染分手綱」豊竹團司

今晚も明日も北よりの風天気

「家庭的宗教」岡部宗城
前一〇、〇〇「講演動物愛と人類愛」安部磯雄
後一、一〇 水上競技第六回明治神宮體育大會水上競技大會
後二、〇〇(子供の時間) 少年講演 鶴見欣次郎
後六、三〇 ラヂオ講座「國際放送の筋道」逓信技師 小野孝
後七、三〇 三曲合奏 箏 佐藤孝子 三絃丹波喜美 治尺八新岡富嶺
後八、〇〇 聲色「吹き寄せ」柳亭春樂
後八、三〇 富本「傳兵衛」富本豊前外
後九、〇〇 義太夫「戀女房染分手綱」豊竹團司

好問尋校体育 石城郡好問村尋常小學校では十

一日午前八時より同校庭に全生徒の秋期運動會を催すが尚本年は同村男女青年團員も参加し盛大に行ふと

好問消防慰安 石城郡好問村消防第八部では四

日午後五時より同村下好問の小頭根本國治氏宅にて組合の秋期慰安會を行ふと

平映畫界

有聲座 昨夜からハリウッド、ロイド主演バラケント嬢出演「ロイドの危険大歓迎」十一巻を上映したが是れは支那に於ては大問題を惹起して遂に上映禁止された問題の笑ひの名映畫で真に抱腹絶倒、場内は爆笑、哄笑相次ぎ非常な賑ひであつた

小説 七五七

(五十一)

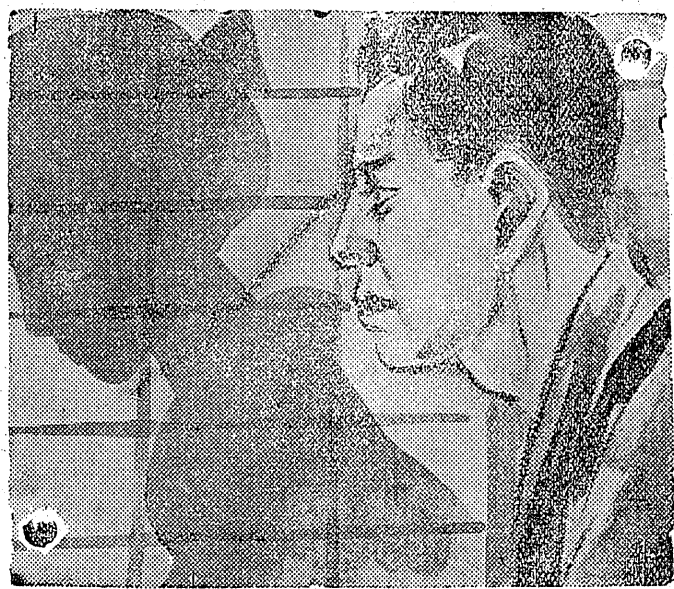
渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

蝶の宿 (12)
さもなくてさへ心のいら
／＼してゐた矢先、油をか
けられたやうにとかつと怒
りが燃えさがつた。でも態
と黙つて冷たい眼にその異
様な踊を眺めてゐた。

「孔雀の羽は美しくとも、
剝製ならば飛べはせぬ、魂
なき造花にどうして香があ
るものか、ゲーシャ、ゲー
シャ、日本のゲーシャ、そ
れは哀なお人形、アラ、ラ
ラやれさ、これさ、ラ、ラ
ラ、ラ——」
「うるさいねッ、藝者がど
うしただんだい、頓痴氣女ッ
！」

歌治は堪りかねて怒鳴つた
「胸に眞實の露ありてこそ
戀にひらく花なれ、さても
口惜しの我身や、露といふ
も名ばかりの偽りに生くる
世渡りの業、戀なくて朽ゆ
く花ぞ悲し。ゲーシャ、ゲ
ーシャ、日本のゲーシャ」
「騒々しいッてばさ、仕様
のない毛唐人だねえ。」
「それは隣れなお人形、ラ
ラ、ラッラ、やれさ、これ
さ、ビ、ビ、ビッ、」
耳に手をかざして逃げ出さ
うとすると、突飛ばされて
そつちへよろ／＼、こつち
へばつたり、倒れたところ



「畜生、覚えてをいでよ」
「げら／＼と大きな笑ひ聲を
投げつけた皆が家のなか
へ引込んでゆく時に、歌治
は帛を裂くやうな叫びをそ
の後影に送つた。
「あゝ痛おう痛」
其の下から彼女はへた／＼
となつて其處にしやがんだ
そして地上に腰を落して自

分の足を摩りながら身悶え
した。根からがつくりと崩
れた島田翁は今にも糸が切
れさうになつて、額にふり
かゝるほつれ毛がうるさく
風にそよぐ。衣裳も形なし
に泥に塗れ、襟はぐつぐつ
に亂れてゐた。そして首筋
の邊りがずき／＼とうづい
てどうかした拍手に筋でも
傷めたのか、右の足の關節
が堪らぬほど痛かつた。
「あゝ、口惜しい、どうし
てやらうかしら」
歯齧みをして窓から洩れて
来る紅い灯かげをぢつと睨
まして直と庭一つ隔てた離
房に入つた。
それが一人ではなかつた。
連がある。確かに男……
どうやら若い男のやうだ、
高野は目を圓くした。

みあげた時に、逆立つた彼
女のマナヅリに呪ひの焰が
閃いた。
× × ×
十文字商會の出納役をつ
とめてゐる高野熊吉は、フ
レーヤ俱樂部に源之助を訪
ねた戻りに關外の待合巴に
立寄つた。
そして馴染の藝者と呼ん

融金替爲・債公・券債
店質井田多
町工大町平
番一九五話電

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

の物刷印
て總は命用御
會社株式刷印日每警常
番〇三六話電

父繁儀九月二十九日死亡致し候
に付き此の段謹告仕候
追而十月五日午後一時自宅出棺神谷村
鎌田弘源寺に於て告別式執行可仕候
十月三日
平町白銀町郵便局通
親戚總代 父 男
水野 隆介
水野 新隆
馬場 紋藏
水野 鐵一郎
國府田 一郎

し出賣大布綿絹衣冬秋

十月五日より七日間
御婚禮花嫁衣裳特賣

●京染無料 紋ニユース山繭御買上の方
にお好みの色を別染致します

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 白生地 | 特價 | 紋ニユース | 一三、五〇 |
| 小紋錦 | 紗八圓 | 仙臺平袴 | 金拾圓 |
| 金波羽織 | 無地七圓 | 黒羽重モン | 付金八圓 |
| 村山 | 大島六圓 | 五圓 | 縮綿 |
| 本場 | 銘仙三圓 | 五圓 | 縮綿 |
| 銘仙 | 夜具三圓 | 五圓 | 縮綿 |
| 新柄 | 着尺モス二圓 | 九十錢 | 正花裏地箱入 |
| 三河 | 正絹 | 五十八錢 | ヨリ綿 |
| 紺 | 裏地 | 八十八錢 | ニコノ |
| 木綿 | 裏地 | 四十五錢 | 瓦斯大島 |
| 正絹 | フトン | 五十五錢 | 半天地 |

吉田眼科病院
平町紺屋町、電話六八番

三井呉服店
平町 電話二八番
電話二八四番

科人婦・科産
院醫坂井
町田町平
番九五五話電

美味！
芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番